

井上正也 研究会

日本外交史



井上ゼミで学ぶこと

2022年（令和4年）度より新設される日本外交史を学ぶゼミです。

日本外交史と聞くと、遠い昔の外交文書を読み解く堅苦しい世界を思い浮かべるかもしれません。しかし、このゼミでは、歴史それ自体を掘り下げるだけではなく、歴史家のカー（E. H. Carr）がいう、歴史と現代との対話を重視しています。たとえば、アジア近隣諸国との歴史問題や領土問題の本質を理解するためには、戦前の日本外交だけでなく、日本の「戦後処理」外交のありかたを知ることが重要です。また米中対立を理解するためには、日本や台湾を含めた東アジア冷戦史の知識が不可欠でしょう。本ゼミの目的は、近現代日本の対外関係の歴史を学ぶことで、明敏な国際感覚とバランスのとれた歴史観を養うことにあります。

具体的な内容については、まず前期では、明治期から1945年の敗戦に至るまでの日本帝国の外交や安全保障に関する書籍を輪読します。日本政治外交史における歴史的事例を取り上げることによって、グローバル化、地政学、政軍関係、民主化といった政治学の重要概念について理解を深めたいと思います。後期では、第二次世界大戦後の日本外交に関する書籍を輪読します。ここでは現代日本外交を大きく規定している日米同盟（安保体制）や日中関係が、どのような国際環境の下で形成され、変化してきたのかを学びます。また領土紛争、基地問題、歴史認識といった諸課題の歴史的起源も考えたいと思います。

連絡先

質問や不明なことがあれば、以下まで連絡ください。
inouemasaya □ gmail.com (□→@)

入ゼミ課題

12月18日（土）までに以下の教員個人ウェブサイトに掲載します
<https://sites.google.com/view/inouemasaya/seminar>

募集人員

12名程度

他学部生の受け入れ可否

原則不可

留学から帰ってくる／留学する学部生の扱い

可（要相談）

ゼミの進め方

毎週のゼミは、時事報告と輪読の組み合わせによって進めます。

◆ 時事報告

毎週1名が、その直前の1週間以内にあった出来事から興味のあるものを一つ取り上げて報告してもらい、全員で議論します。

◆ 輪読

全員が指定されたテキストを事前に読み、担当学生がレジュメで報告を行った後、討論を行います。またグループチャットを活用し、教員または担当学生から事前に論点を提起してもらう予定です。

テキスト分量は新書なら毎週1冊、ハードカバー（学術書）なら2週間で1冊が目安です。リーディング・アサインメントは毎週250ページ前後です。

◆ その他の活動

初年度なのでゼミ生と運営方針を相談しながら決めていこうと思いますが、国際関係の時事問題に関するディベートや、外務省外交史料館の見学などのエクササイズも随時行いたいです。またゼミ合宿も、コロナ禍で中断しているが、感染状況がふまえて開催したいと思います。

テキスト例（22年度のテキストは学期初めに指示します）

大沼保昭『「歴史認識」とは何か』（中公新書）

岡崎久彦『戦略的思考とは何か』（中公新書）

小林道彦『近代日本と軍部 1868-1945』（講談社現代新書）

小山俊樹『五・一五事件』（中公新書）

鈴木美勝『北方領土交渉史』（ちくま新書）

添谷芳秀『日本の外交』（ちくま学芸文庫）

武田康裕『日米同盟のコスト』（亜紀書房）

戸部良一他『失敗の本質』（中公文庫）

服部龍二『日中国交正常化』（中公新書）

教員プロフィール

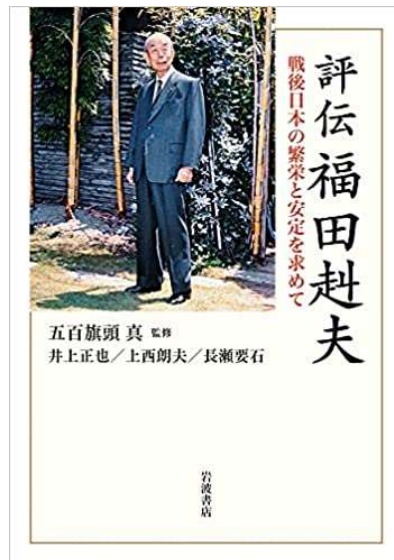
◆ 学歴・職歴

1979年大阪府堺市生まれ。2002年神戸大学法学部卒（五百旗頭真ゼミ）。2006-7年ペンシルヴァニア大学歴史学部訪問研究員、2009年神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（政治学）。同年神戸大学大学院法学研究科専任講師、2010年香川大学法学部准教授、2015年成蹊大学法学部准教授、2017年同教授。この他、外務省国際法資料研究会委員、愛知大学国際問題研究所客員研究員を歴任、2022年から読賣新聞読書委員。

◆ 研究業績

単著として『日中国交正常化の政治史』（名古屋大学出版会、サントリー学芸賞・吉田茂賞受賞）。共著として宮城大蔵編著『戦後日本のアジア外交』（ミネルヴァ書房、国際開発研究大来賞受賞）、五百旗頭真監修、井上正也・上西朗夫・長瀬要石著『評伝福田赳夫』（岩波書店）など。論文として「吉田茂の中国「逆浸透」構想：対中国インテリジェンスをめぐる、1952-54」『国際政治』（151号、日本国際政治学会奨励賞受賞）など多数。

※ その他の研究業績や活動は[Research map](#)をご覧ください。



箱根でのゼミ合宿（2018年度）